

# モーツァルト室内管弦楽団 第65回 定期演奏会



独奏：蛭澤 亮  
(ファゴット)

茨城県笠間市出身。国立音楽大学器楽科卒業。ウィーン音楽院私立大学修士課程を最優秀の成績で修了。長江杯国際コンクール第三位、コンセールマロニエ入選など入賞歴多数。ザルツブルク音楽祭、アッターガウ音楽祭、草津音楽祭などに出演。スロバキア・コシチェ・オーケストラフェストにはソリストとして出演。バーデン市立劇場管弦楽団、ウィーン・シェンブルン管弦楽団など各地のオーケストラに客演。ニューヨーク・シェンコン交響

楽団首席奏者を歴任。茨城文化振興財団登録アーティスト。ファゴットを馬込勇、M・ヴェルバ、S・アッツォリーニの各氏に師事。「おしゃぶあご〜蛭澤亮のおしゃべりファゴット」をはじめ、トークを交えたコンサートを各地で開催している。

W.A. モーツァルト：

交響曲 第32番 ト長調 K.V.318

ファゴット協奏曲 変ロ長調 K.V.191

F. J. ハイドン：

交響曲 第101番 ニ長調「時計」

演奏：モーツァルト室内管弦楽団



指揮：角 岳史

島根県に生まれる。東京学芸大学芸術課程音楽科卒業。指揮と作曲を学ぶ。1995年よりウィーンに留学し研鑽を積む。

1996年より2009年まで(財)日本オペレッタ協会の全ての公演において、指揮者または合唱指揮者として、「こうもり」「メリー・ウィドウ」をはじめとする数多くのオペレッタに携わる。

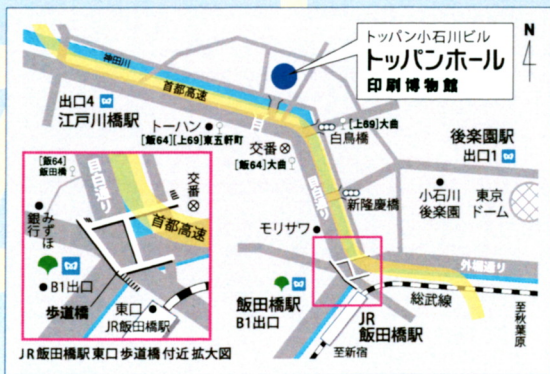
オペラでも、これまで各地の団体がモーツァルト「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」、ヴェルディ「椿姫」「リゴレット」、プッチーニ「ボエーム」、ビゼー

「カルメン」、フンパーディング「ヘンゼルとグレーテル」、團伊玖磨「夕鶴」などを指揮。1998～1999年シーズンには劇団四季のロングラン公演『オペラ座の怪人』でミュージカル指揮者としても活動。

またオーケストラや合唱の指揮者、指導者としても各方面で活躍している。近年では、コンサートやオペレッタの舞台のプロデュース、構成演出、台本なども手がけている。現在、東京オペレッタ劇団音楽監督。

指揮を井崎正浩、湯浅勇二、松尾葉子、ヴァラディ・カタリン、ルドルフ・ピーブルの各氏に、作曲を故青木祐二、吉崎清富の各氏に師事。

当楽団ではこれまで10年以上にわたって、ほぼ毎年定期演奏会などを指揮。



交通：  
飯田橋駅 JR総武線(東口)  
東京メトロ有楽町線、東西線、南北線、都営地下鉄大江戸線(B1出口)より徒歩約13分  
江戸川橋駅 東京メトロ有楽町線(4番出口)より徒歩約8分  
後楽園駅 東京メトロ丸の内線、南北線(1番出口)より徒歩約10分

2017年12月3日(日) 午後2時開演

トッパンホール

文京区水道1-3-3

チケット：¥1,000(全席自由) 問い合わせ先：042-397-2883 藤井方

モーツァルト室内管弦楽団のホームページ：<http://orchestra-mozart.sakura.ne.jp/>